

平成29年度 基本施策評価シート（部別）

基本目標	豊かな産業のあるまちの形成
基本方針	次代へつなぐ農林水産業を振興するまち
基本施策名	農業・農村の振興

	所属	職名	氏名
作成者	耕地林務課	課長	丸山 浩
評価者	農林部	部長	大向 弘明

1 基本施策に対する基本姿勢

現状	本市の農業・農村を取り巻く現状は、農業従事者の高齢化や後継者不足、また、農産物販売価格の低迷等、国内農業全般に共通する深刻な課題を抱えています。これに加えて、農産物の輸入と貿易自由化に係る国際情勢の変化への対応が迫られています。過去に施工した農業用水利施設が耐用年数を迎え、経年劣化により不具合が生じており、更新事業が必要です。また、担い手集積のために、耕作条件整備を図る必要があります。
基本方針 (目指すべき方向性)	農業で「稼ぐ」、田園を「守る」、安曇野に「生きる」を農業振興戦略の3つの柱に定め、魅力ある農村社会づくりを目指します。

2 施策指標

指標	単位	(設定時)	目標値	H27	H28	H29	達成率	進捗状況	所管課	
認定農業者数	経営体		274	305	264	267	273	89.5	順調	農政課
集落営農組織数（共同販売経理を行う組織数）	組織		24	33	26	27	27	81.8	順調	農政課
担い手への農用地利用集積率	%		47.9	56.4	52.6	56.9%	60.0	106.4	予定以上	農政課
土地改良事業実施面積（ha・累計）	ヘクタール		5,270	5,431	5,375	5,395	5,416	99.8	順調	耕地林務課

施策指標の進捗状況と分析	県営土地改良事業により、基盤整備事業が計画的に進められている。
--------------	---------------------------------

3 基本施策を構成する事務事業の評価

(単位:円)

No	コード	事務事業名	所管課	事業費					事務事業の状況					重点化		
				H27	H28	H29	H30	H31	合計	事業区分	新/継	終期	方向性		正規職員数	
1	0106060	有害鳥獣駆除対策事業	林務担当		11,438,000	13,197,859				24,635,859	定型業務	継続	期限なし	現状のまま事業を実施することが適当	0.5	
2	0106710	三郷農村環境改善センター施設管理事業	耕地担当		8,227,359	7,628,678				15,856,037	施設の管理運営	継続		事業の進め方の改善が必要	0.1	
3	0106720	農村公園遊具更新事業	耕地担当			5,400,000	7,568,000	3,584,000		16,552,000	ハード(新規)	新規	H35以降	事業の抜本的な見直しが必要	0.15	
4	0106760	農業用水路改修工事(土地改良施設維持管理適正化)	耕地担当		5,538,000	10,647,860	2,411,000		360,000	18,956,860	ハード(継続)	継続	H35以降	事業の進め方の改善が必要	0.3	
5	0106780	農地保全活動交付金(多面的機能支払)	耕地担当		201,580,310	217,632,804				419,213,114	義務業務		期限なし	現状のまま事業を実施することが適当	1.5	○
6	0106790	農業施設維持工事(市単)	耕地担当		53,629,091	43,495,268	41,200,000	41,200,000		179,524,359	ハード(継続)	継続	H35以降	事業の進め方の改善が必要	0.6	
7	0106820	農業用排水路工事・農道舗装工事(団体営)	耕地担当		25,895,134	35,923,673	28,950,000	30,670,000		121,438,807	ハード(継続)	継続	H35以降	現状のまま事業を実施することが適当	0.6	
8	0106840	ほ場整備負担金(経営体育成基盤整備)	耕地担当		90,690,110	40,582,549				131,272,659	定型業務		H32	現状のまま事業を実施することが適当	2	
合計					396,998,004	374,508,691	80,129,000	75,814,000		927,449,695						

事務事業量とコスト(費用対効果)の分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>有害鳥獣駆除については、目標個体数調整には至らなかったが、昨年より急増したツキノワグマ出没に関して、人的被害を防ぐ事が出来た。</li> <li>三郷農村環境改善センターについては、指定管理者による円滑な運営が図られている。</li> <li>農村公園遊具更新については、設計業務を直営で行い経費の削減を図った。</li> <li>多面的機能支払交付金事業(農地保全活動交付金)により、各組織の取組地域内の地域資源の質的向上を図る共同活動や施設の長寿命化のための活動により適切に維持管理がされている。</li> </ul>
重点化事務事業の考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>多面的機能支払交付金事業については、組織の広域化を図ることにより事務負担の軽減や効果的な予算運用、また、機械等の共同利用による経費の削減を図ることができる。</li> </ul>
縮減・廃止事務事業の考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>経営体育成基盤整備の県営ほ場整備鳥川地区は、基盤整備事業は概ね終了となり、今後は換地業務が主業務となる。</li> </ul>
総合評価(次年度へ向けた課題の抽出)	<ul style="list-style-type: none"> <li>有害鳥獣駆除対策は、予防対策事業と連携強化を図ることにより、効率的・効果的な駆除対策に取り組む。</li> <li>農地保全活動交付金(多面的機能支払交付金事業)については、広域活動組織による取り組みにより、有利な交付金により事業活動を実施する。</li> <li>老朽化した農業用水利施設等は、団体営土地改良事業で改修しているが、インフラ長寿命化計画(行動計画)に基づき、個別施設毎の具体的な対応方針を定め、ストックマネジメントを確立し、計画的な維持管理・更新等を推進していく必要がある。</li> </ul>

平成29年度 基本施策評価シート (部別)

基本目標	豊かな産業のあるまちの形成
基本方針	次代へつなぐ農林水産業を振興するまち
基本施策名	林業の振興

	所属	職名	氏名
作成者	耕地林務課	課長	丸山 浩
評価者	農林部	部長	大向 弘明

1 基本施策に対する基本姿勢

現状	木材価格の低迷等により、森林所有者はじめ地域の森林への関心が薄れ、手入れの行き届かない森林が増加しています。また、松くい虫被害が高水準で推移し、清らかな水や空気を育み、土砂災害や地球温暖化を防止するなどの森林の持つ多面的機能が低下しています。また、間伐等森林整備に必要な作業道などの路網整備が進んでいない現状であります。
基本方針 (目指すべき方向性)	多くの人が山にふれあえる森林環境を整備し、豊かな森林と里山再生を目指します。

2 施策指標

指標	単位	(設定時)	目標値	H27	H28	H29	達成率	進捗状況	所管課	
林内路網 (m/ha)	m		31.4	31.5	29.5	30.0	30.3	96.2	順調	耕地林務課
間伐目標面積 (ha/年)	ヘクタール		327	220	849	1,002	833	378.6	予定以上	耕地林務課
特用林産物の生産額 (千円/年)	千円		831,327	850,000	1,140,342	532,794	706,081	83	停滞	耕地林務課

施策指標の進捗状況と分析	林業事業者が山林所有者と森林経営計画を策定し、補助事業を活用した間伐等の森林整備を実施しています。また、松くい虫被害対策として補助事業による伐倒駆除やライフライン保全対策としての枯損木処理、更新伐による樹種転換事業を実施しています。搬出間伐等の森林整備に必要な既設林道の維持管理を行い、崩落等の恐れのある危険個所の改良工事を実施しています。
--------------	--

3 基本施策を構成する事務事業の評価

(単位: 円)

No	コード	事務事業名	所管課	事業費					事務事業の状況				重点化		
				H27	H28	H29	H30	H31	合計	事業区分	新/継	終期		方向性	正規職員数
1	0106590	里山再生計画推進事業	林務担当		3,972,900	3,073,960	4,855,000	4,855,000	16,756,860	政策的業務	継続	H31	現状のまま事業を実施することが適当	1.5	
2	0106600	長峰山森林体験交流センター事業	林務担当		18,352,960	14,751,160			33,104,120	施設の管理運営	継続		事業の抜本的な見直しが必要	0.1	
3	0106610	松くい虫防除対策事業	林務担当		191,285,858	123,328,910			314,614,768	義務業務	継続	期限なし	事業の抜本的な見直しが必要	1.3	○
4	0106620	松くい虫被害対策更新伐事業	林務担当		44,755,200	34,785,720	33,113,000	33,113,000	145,766,920	ハード(継続)	継続	期限なし	事業の進め方の改善が必要	0.5	
5	0106630	松くい虫防除対策事業市単補助事業	林務担当		29,953,715	29,551,824	31,564,000	30,159,000	121,228,539	政策的業務	継続	期限なし	事業の進め方の改善が必要	1.5	
6	0106640	市有林森林整備事業	林務担当		3,796,824	13,243,543			17,040,367	定型業務	継続	期限なし	事業の進め方の改善が必要	0.5	
7	0106670	市単林道維持事業	林務担当		20,782,484	17,509,958			38,292,442	施設の管理運営	継続	期限なし	現状のまま事業を実施することが適当	0.5	
8	0106680	林道危険箇所重点整備事業	林務担当		28,663,200	34,797,600	57,720,000	37,280,000	158,460,800	ハード(継続)	継続	H31	現状のまま事業を実施することが適当	0.3	
合計					341,563,141	271,042,675	127,252,000	105,407,000	845,264,816						

事務事業量とコスト(費用対効果)の分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>里山再生計画の推進については、五つのプロジェクトが里山への関心を高める様々な取り組みを実施し、市民の参加が徐々に増えてきている。また、専門学校との連携によりロゴマークの作成が行われた。</li> <li>長峰山森林体験交流センター事業については、指定管理者が地域資源を活用した取り組みを行っている。</li> <li>松くい虫被害対策は、伐倒駆除については被害地域では補助事業を活用して重点的に取り組み、激害地域においてはライフライン保全対策を実施した。</li> <li>林道危険箇所重点整備事業については、補助事業を活用して改良工事を実施している。</li> </ul>
重点化事務事業の考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>本市における松くい虫被害は平成12年に被害が確認され、被害の蔓延防止として様々な対策を取っているが、平成29年度の被害量は約8千立方メートルと依然高水準で推移し沈静化には至っていない。被害木の全量駆除は難しいため、各地域の被害状況に応じた総合的・効果的な防除対策に取り組んでいく。</li> </ul>
縮減・廃止事務事業の考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>松くい虫被害量は依然高水準で推移しているため、枯損木の全量駆除ができないため、予防対策実施地域や被害の少ない地域を重点的に駆除対策を取っていく。また、松くい虫被害対策として実施している更新伐については、当初計画地は概ね完了したことから、林業事業者が主体で取り組む方向でいきたい。</li> </ul>
総合評価(次年度へ向けた課題の抽出含)	<ul style="list-style-type: none"> <li>里山再生計画の推進については、現在の委員やスタッフが主体となって運営する方向性にしたい。</li> <li>長峰山森林体験交流センターについては、施設の老朽化対応や施設の譲渡に向けた検討が必要と思われる。</li> <li>松くい虫市単補助事業については、予防対策については減少傾向にあるが、伐倒対策については複数本の処理が必要な案件が増加しているため、新たな対応の検討が必要である。</li> <li>林道危険箇所重点整備事業は、国の補助金が要望額を下回っているため、当初計画どおりに進んでいない現状である。</li> </ul>